

**免疫学者のパリ心景**  
新しい「知のエティック」を求めて

矢倉 英隆

(医歯薬出版、2022年6月22日刊行予定)

## 目次

はじめに

### 第1章 なぜフランスで哲学だったのか

1. フランス語との遭遇
2. 抱えていた実存的問い
3. フランスでの「全的生活」を模索する
4. 刻印を残した2人の哲学者： ピエール・アドーとマルセル・コンシュ
5. フランスの大学院教育を受けて

COLUMN 1. 古典を読むという「実験」が欠かせないわけ

### 第2章 この旅で出会った哲学者とその哲学

1. ハイデッガー、あるいは死に向かう生物としての人間
2. プラトンの『パイドン』から見える生き方
3. アリストテレスの「エネルゲイア」とジュリアン・バーバーが考える時間
4. ディオゲネスという異形の哲学者
5. 誤解され続けた「魂の医者」エピクロス
6. エピクテトスとマルクス・アウレリウス、あるいは現代に生きるストア哲学
7. スピノザへの旅
8. ジョルジュ・カンギレムが考えた正常と病理、そして治癒
9. 橋を架けるミシェル・セール
10. 哲学に対する二つの態度、あるいは分析哲学と大陸哲学

COLUMN 2. 二つの闇の間の閃光

### 第3章 科学という営み、あるいは科学者を突き動かすもの

1. 「ダーウィン 2009」、そしてダーウィンが試みたこと
2. ジャン・バティスト・ラマルクの思想と人生
3. エルンスト・ヘッケルが求めた一元論
4. イリヤ・メチニコフとジュール・ホフマンと自然免疫
5. トルストイの生命観と科学批判
6. ルドヴィク・フレックが見た科学という営み
7. パウル・カンメラーとウィリアム・サマリン、あるいは正統から追われた科学者
8. ニールス・イエルネという哲学的科学者
9. フランソワ・ジャコブ、あるいは科学の先にあるもの
10. フィリップ・クリルスキーが考える専門と責任の関係

#### COLUMN 3. 免疫の本質に至る旅

### 第4章 科学と哲学の創造的関係を求めて

1. オーギュスト・コントの「3段階の法則」
2. 「科学の形而上学化」、あるいは「4段階の法則」
3. そもそも形而上学とは何をする学問なのか
4. なぜ「科学の形而上学化」が必要になるのか
5. 意識の3層構造と第3層の重要性
6. 「科学の形而上学化」の実践

#### COLUMN 4. 「科学と哲学」を考えるカフェとフォーラム

### 第5章 「現代の超克」のためのメモランダム

1. シュペングラーが考えた技術、文化、文明

2. ハイデッガーによる「テクネ」から現代を考える
3. プラトンが問いかけた「知る」ということ
4. 徳認識論と「科学の形而上学化」
5. 「わたしの真理」から「絶対的真理」への道を想像する
6. 真理の探究と幸福、そしてこの生の意味

COLUMN 5. エッセイシリーズから見えてきた好みの哲学者

おわりに